

日本福祉大学 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム
2024（令和 6）年度自己点検・評価報告書

全学教育センター

2024（令和 6）年度の状況

プログラムの履修状況

全学生数 4929 名（2024 年 5 月 1 日付在籍生）

	2023 年度	2024 年度	合計
履修者数※1	1157 名	1170 名	2327 名
履修率※2	—	—	38.4%

※1 新 1 年生の履修者数（2023（令和 5）年度 1 年次新入学生より履修可能）

※2 履修率は収容定員（6,060 名）比による割合

●学内からの視点

プログラムの履修・修得状況

プログラムは、通学課程全学部で開講されている科目で構成しており、該当の科目は各学部の卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための履修前提条件科目として位置付けている。1 年次に全ての学生が履修登録を行っている。修得に向けては、各講における課題提出状況、オンデマンドコンテンツ視聴履歴、進捗を本学 LMS システム（nfu.jp）にて把握することができる。今年度においては、1 年生の履修者数 1170 名（昨年度 1157 名）のうち、修了者 1112 名（95.0%）（昨年度 1083 名（93.6%））という結果となった。本プログラムの実施は 2023（令和 5）年度からとなるため、経年での比較はあまりできないが、昨年度より修了率、修了者数は向上した。このほか導入前の授業内容での修了者の割合と大きな差は見られなかった。

学修成果

学修成果としては、社会の変化と数理・データサイエンス・AI との関係性と、それらが自らに対して与える影響について理解することを目指している。このため学生に対しては、一般的な影響などに関してはオンデマンドで、自らに対する影響などは、ディスカッションやレポートによって考える機会を与えている。これらのレポートにおける理解度に加え、授業評価アンケートによる理解や満足度などをもとに、本講義の担当者や事務局などが一体となってプログラムの評価・改善を行っている。

学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度、学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

数理・データサイエンス・AI 教育に関する問いに関して、教員の説明のわかりやすさ（問 5）、グループワークが学びを深めるのに役に立ったか（問 6）などに関しては、肯定的な意見が 8 割を超えていた。また、（問 7）より高度な内容を受講したいかの質問に関しても肯定的な意見が 50%を超えており、教育内容や学修効果を満たしていたといえる。

授業内容の一部で導入したオンデマンドコンテンツに関する質問に関しては、全体的に集中していたと答えた学生は半数を超え、コンテンツの利点を生かした教育内容がおおむね達成できたと評価できる。また、7割弱の学生が当該教育内容についてオンデマンドでの学びやすさは対面の講義と同等かそれ以上であると答えていた。他方で一部集中力を欠いた学生も一定数増えており、オンデマンドコンテンツの受講を積極的に行える環境やコンテンツ作りには今後検討の余地がある。

全体の項目について総括すると、2023（令和5）年度と比較して大きな変化は見られなかった。

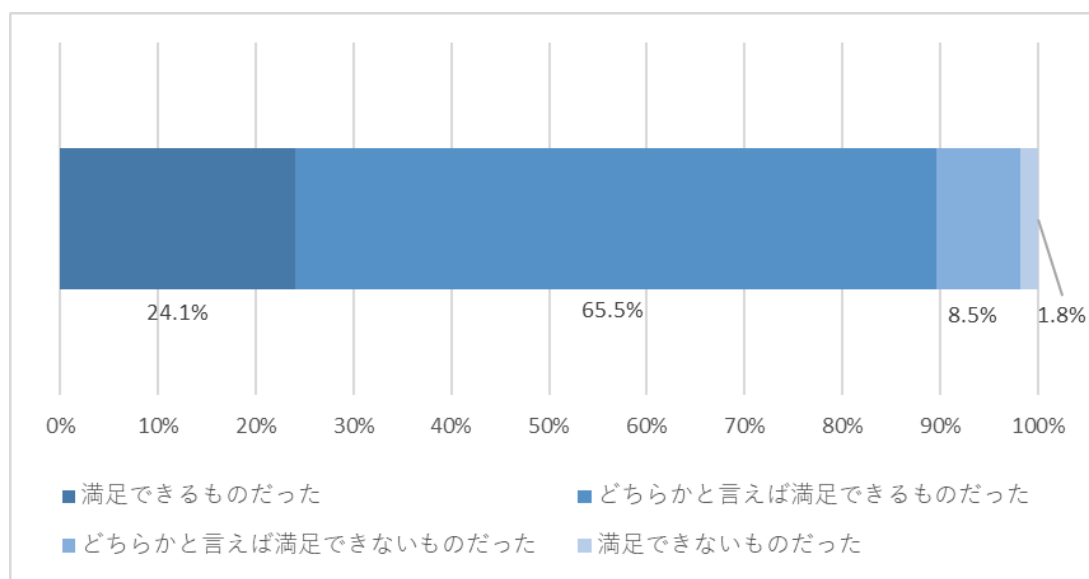
プログラムについては、冒頭にも述べた通り、通学課程全学部で開講されている科目で構成しており、該当の科目は各学部の卒業必修科目、全員履修科目、卒業必修科目を履修するための履修前提条件科目として位置付けている。1年次入学生は履修推奨度によらず履修するものであるが、授業評価アンケートの結果を踏まえると、授業の手法、教員の説明、全体の満足度といった問いに対して肯定的な意見が8割を超えており、特に将来に役に立つと感じた学生は9割を超えていた、内容としては十分に全員に履修を推奨できるものであるといえる。

ただし、授業内容を難しかったと答える学生も一定数いることや自分の知識として蓄えて後輩や他の人に伝えられるように理解していく、興味を持つという点では肯定的な意見が半数である点を踏まえ、理解進度に合わせた学修支援やフォローは必要となる。

<数理・データサイエンス・AI教育のコンテンツ内容に関するアンケート>

1. これら（「数理・データサイエンス・AI教育」の基礎部分）の学習は、全体として満足できるものでしたか？

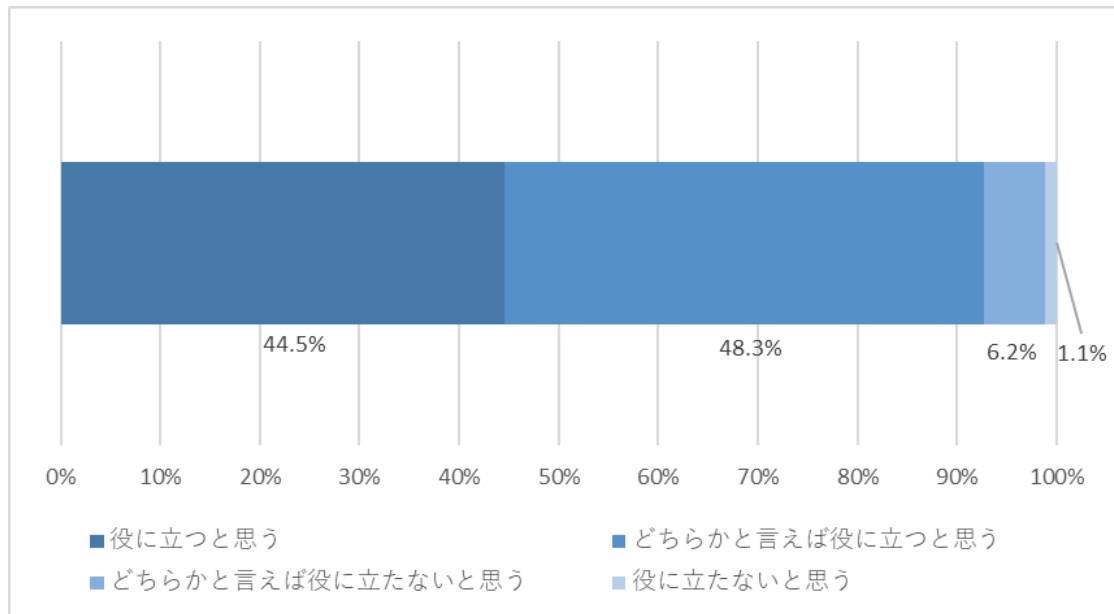
2024 年度



N = 1088

2. これら（「数理・データサイエンス・AI 教育」の基礎部分）の学習は、あなたの将来に役に立つと思いませんか？

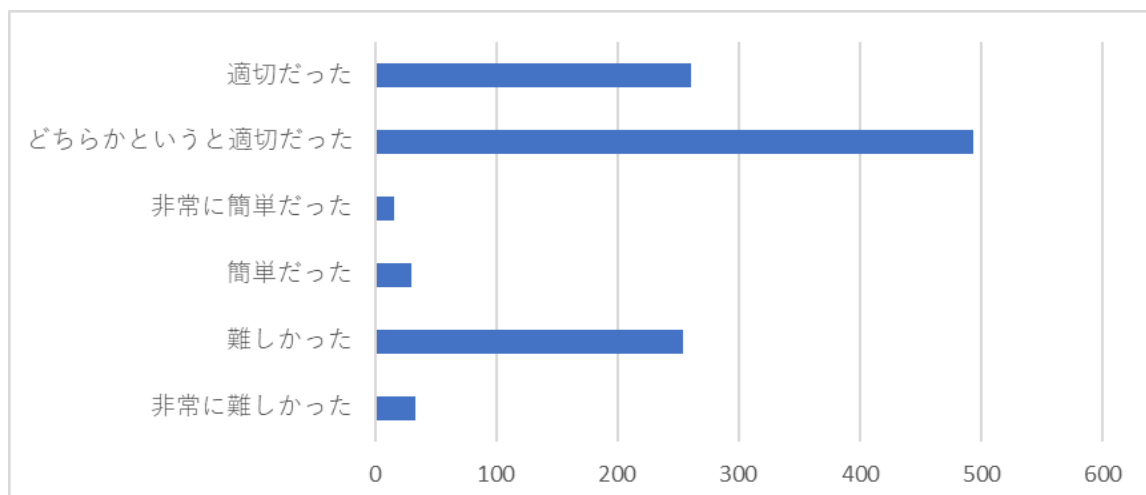
2024 年度



N = 1088

3. これら（「数理・データサイエンス・AI 教育」の基礎部分）の学習のレベルは、あなたにとって適切でしたか？

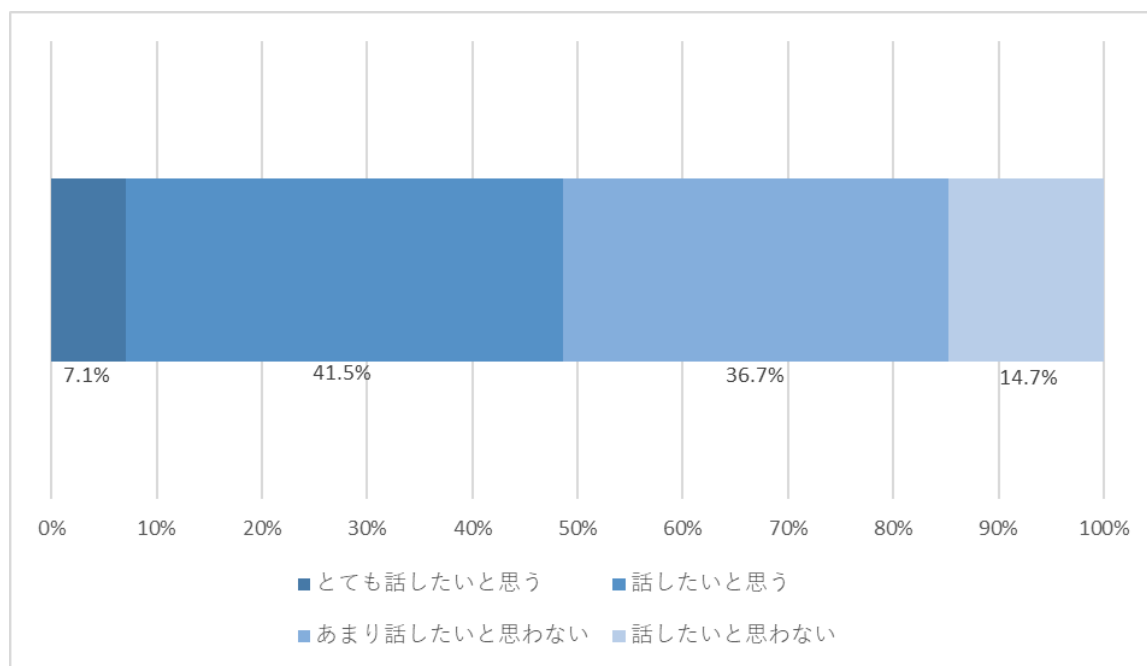
2024 年度



N = 1088

4. これら（「数理・データサイエンス・AI 教育」の基礎部分）の学習で学んだことを、家族や友人、後輩などに話したいと思いませんか？

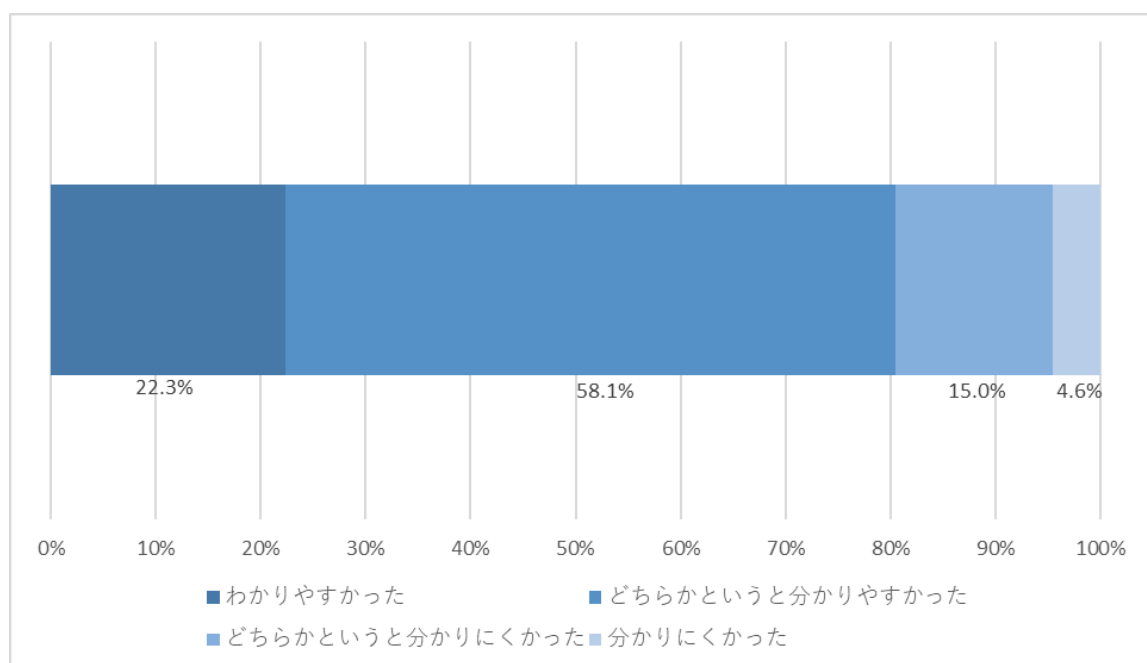
2024 年度



N = 1088

5. これら（「数理・データサイエンス・AI 教育」の基礎部分）についてオンデマンドで説明している教員の説明は、わかりやすかったですか？

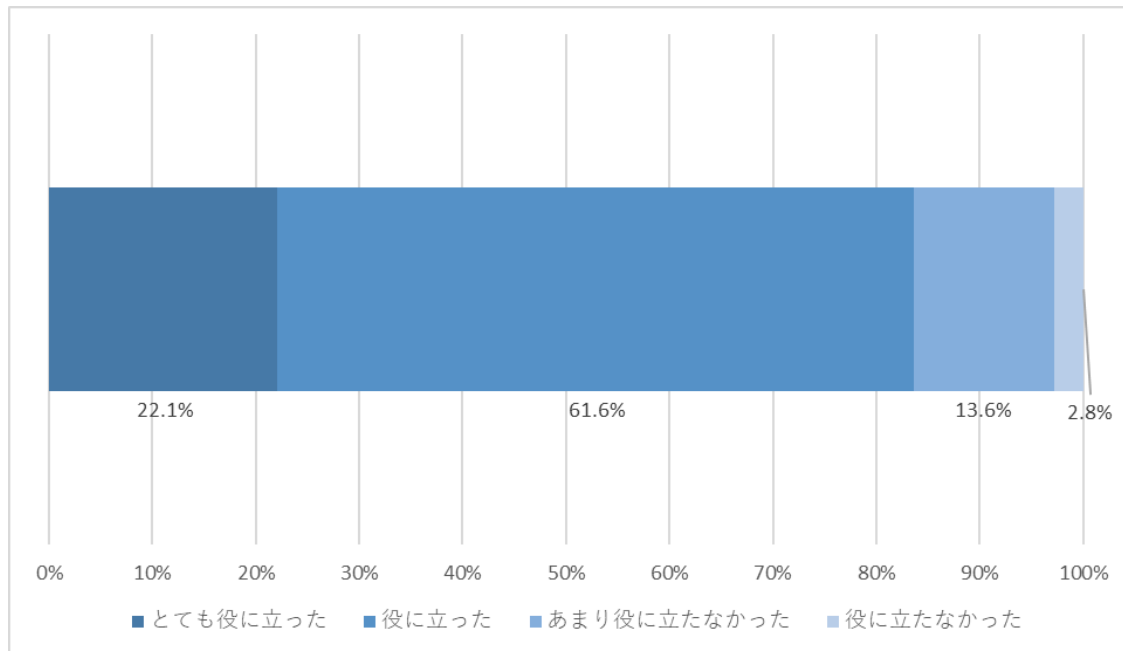
2024 年度



N = 1088

6. これら（[数理・データサイエンス・AI 教育]の基礎部分）についてグループワークは、より学びを深めるのに役立ちましたか？

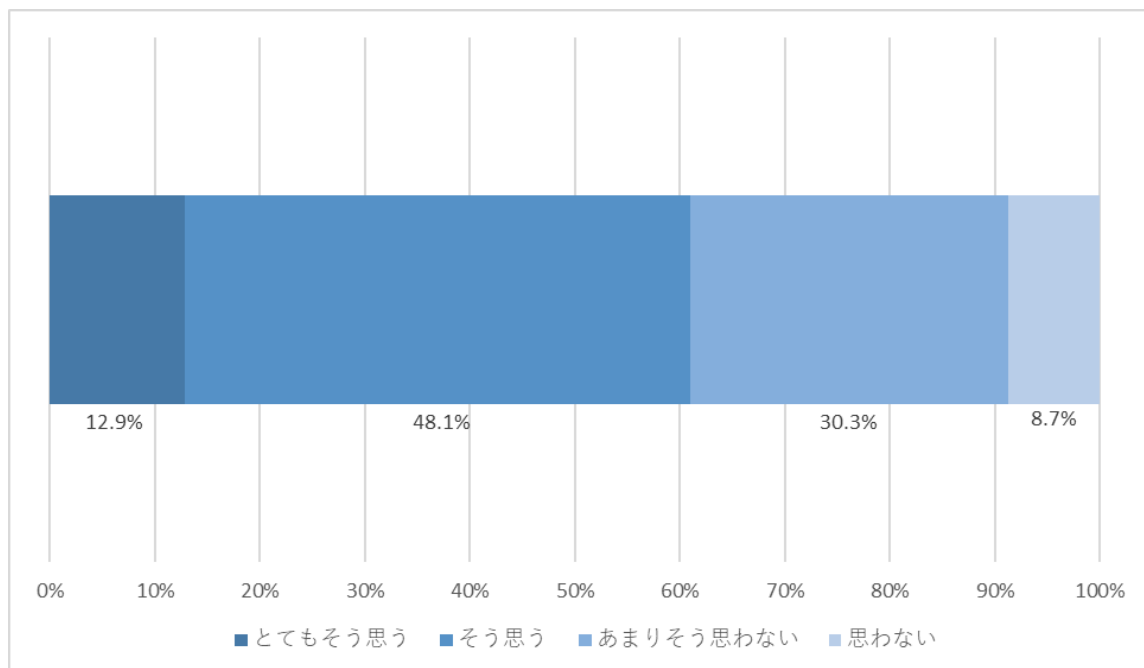
2024 年度



N = 1088

7. これら（[数理・データサイエンス・AI 教育]）の学習分野における、より高度・より専門的・より実践的な内容を受講したいと思いましたか？

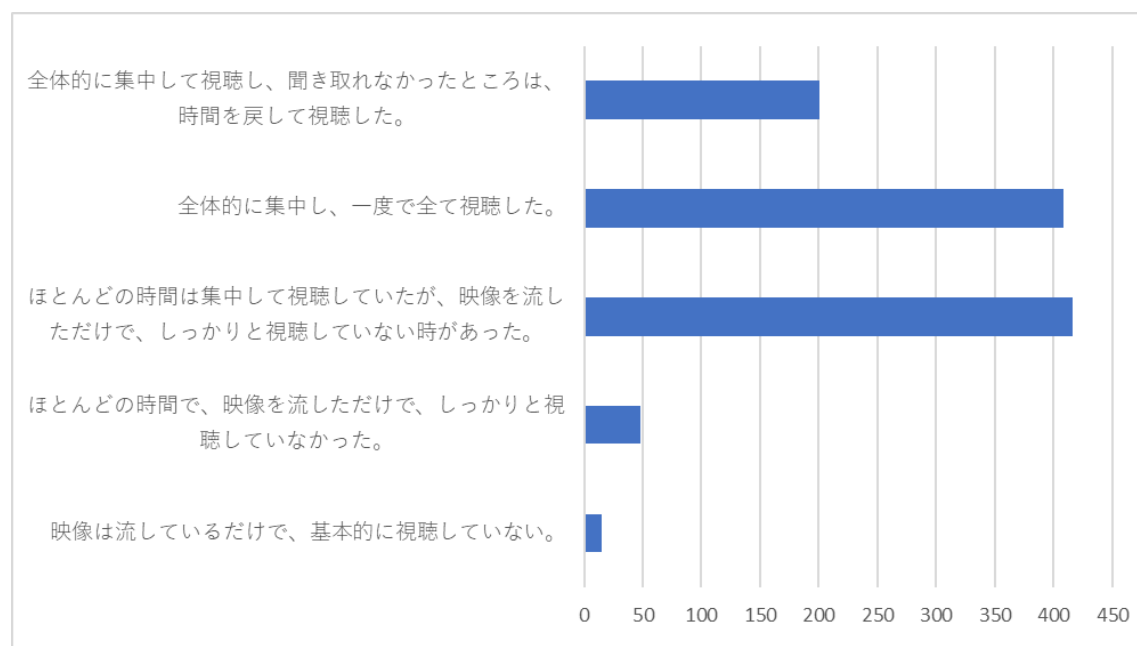
2024 年度



N = 1088

8. この科目のオンデマンドコンテンツ受講時の姿勢について、あなたの取り組み姿勢に近いものを1つ回答してください。

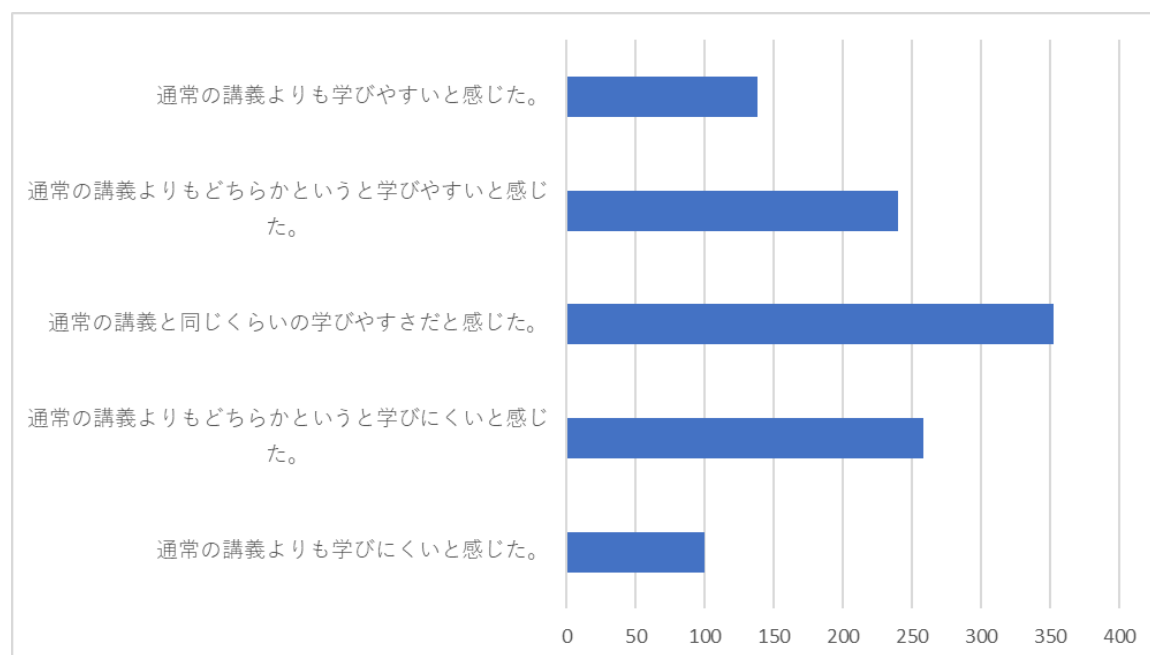
2024 年度



N = 1088

9. この科目のオンデマンドコンテンツの学びやすさについて、(同じ内容が対面授業であった場合と比べて) 近いものを選んでください。

2024 年度



N = 1088

●学外からの視点

教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

プログラムは2023（令和5）年度より実施しているため、現段階での進路、活躍状況、企業等の評価を計ることはできないが、今後就職支援を行う部局との連携により進路調査や卒後調査も含めて集約の実施を検討する。

産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

本学の外部評価委員会にて教育プログラム内容や手法について報告を実施し、多様な分野の委員より意見聴取を行う機会を設けている。

2023（令和5）年度の実施結果および2023（令和5）年度に外部評価委員会での意見を踏まえ2024（令和6）年度のプログラム進捗を報告した。円滑なプログラム進捗と引き続きの報告を前提として、特に意見は付されなかった。

●改善に向けた取り組み

数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

数理・データサイエンス・AIに関する話題は、普段の暮らしの中で興味があるような内容との関わりを示し、学ぶことによって生活がより鮮明になり、これからの社会への予測が立てられるようになることから、学ぶことが楽しくなるように工夫している。また、卒業後の進路や将来と新しい技術やそれに伴う心構えとを常に意識させるため、たとえばグループワークやレポートなどにおいても、卒業後を意識するテーマにしており、それぞれの学生の目指す専門的なものとの関係性を見出し、学ぶことの意義へとつなげている。

内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

本学は、全学生が履修する形で行なうこと、異なった視点を持つ他の人と価値観をすり合わせつつ知見を共有させること、また、聴覚障害などの学生に対する情報保障を行うことといった条件の中で仕組みを検討している。このため、日進月歩で進化していく内容に関しては、グループワークの中で新しい情報を調査、共有させることとし、これまでの歴史や、考え方、目指すものなど、すぐに変わらず、知識として伝達できるものに関しては、オンデマンドで実施している。内容の質やレベルに関しては、高等学校までの習熟度にも沿うように徐々に改修を進めていくことを最初期から検討しており、また、すべての学部学科において前期に行うよう調整することができたため、年度内での振り返りと次年度の準備が可能となり、より良い授業へと向上させていくことができるようになった。